

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500277		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム宝達の郷(たんぽぽユニット)		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜148番1		
自己評価作成日	令和6年11月30日	評価結果市町村受理日	令和7年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所
所在地	石川県白山市みずほ1丁目1番地3
訪問調査日	令和7年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送っていただきます ・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します ・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します という理念を活かし、ご縁のあった利用者さんに幸せな時間を提供できるように日々努力しています。 食事前には全員で体操や唄を歌い、お花見や夏祭り、バーベキュー等色々な年間行事を通して、楽しくのびのびと生活していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」に職員が目指すべき指針を示し、利用者個々の症状や能力に応じながら、理念の具体化具現化に日々取り組んでいる。 ・介護計画は「その人らしさ」を重視し、利用者にとって今必要な支援には具体的に何をすればよいかを端的に示し、職員誰もがいつでも確認できるようタブレットにも表記して、ケアサービスの統一性と実効性を高めている。 ・依然続くコロナ禍にあっても、家族には利用者との感染対策を講じた面会や個別外出、スナップ写真を毎月送付し年賀状には写真に加え可能な方には直筆コメントも添え、利用者には正月は全職員が自前の一品を持ち寄り1人用重箱に盛るお節料理で始まり、初詣、節分、雛祭り、花見、土間打ち中庭でのバーベキューや流しそうめん、夏祭り、紅葉狩り、クリスマス等々、毎月何かしらの行事を開催し、不自由さを感じさせないよう取り組んでいる。 ・職員には業務効率化と負担軽減を目的に、タブレット使用による情報共有や適正管理、事情に応じた勤務体制や時間調整、有給休暇の促進や代表者抜きのグループアプリ等々、今年度はさらに初任給アップや抜擢人事、資格取得に向けた仕組み作りに完全調理品も導入するなど、より働きやすい環境作りに向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	グループホーム宝達の郷(たんぽぽユニット) 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議開始前に全員で唱和するとともに、日々事あるごとに理念を念頭におきながら利用者様と関わる努力をしている。	理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」に、ホームとしてのあるべき姿勢を示し、続くコロナ禍や震災被災があっても、利用者が望む暮らしぶりとなるよう症状に沿った支援を念頭に、会議前の理念唱和や日々関わりの中で都度省みて、理念の具現化・具体化に向け取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の催し物への参加や秋祭りの神輿の招待など交流する機会を持つようにしている。	感染防止に留意しながらも、今年度は敬老会に行ったり、ホーム前で獅子舞披露や花火大会の鑑賞、ホーム横のグラウンドでのテラノザウルス祭りに参加し、元自治体職員のホーム職員が地区老人会役員もしていることから招かれた日舞鑑賞会では、胡弓や琴演奏で感泣された利用者もいるなど、コロナ禍から徐々に回復している地域とともに交流を広げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今浜老人会の行事に数多くの利用者様を参加させて頂いた際、移動時の介助や座席などいろいろ考えてくださった。実際に触れ合う事で理解が深まったと感じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	元旦に起きた地震では実際に宝達の郷より押水に避難した。その時の体験を踏まえ避難先や移動方法についても話し合うことができた。	会議は隔月に、家族代表、町社協会長の区長、自治体・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と時間差で開催している。元日地震後には発災後の避難先や避難手段、支援先や体制について改めて情報提供や助言を受けて見直す機会にもなっており、議事録ファイルは玄関に常置して公開している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新申請等で月に数回市町村担当者顔と顔を合わせる機会をもうけ顔見知りの関係性を築いている。	自治体担当課には、運営推進会議にて運営状況や実情を伝えているとともに、毎月の入退去報告や介護認定更新など、制度・法令順守に沿った適正協力関係維持に努めており、地震発災後に開設のWeb情報提供アプリでは断水対策対応に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内はいつでも自由に出入りできる環境を整え常にオープンな状態となるよう心掛けている。また利用者様に尊厳を持った対応ができているかユニット会議等で話し合っている。	身体拘束の正しい理解は、身体拘束等適正化委員会や研修・勉強会、職員会議等を通じて省みる機会を設け、その活動は運営推進会議でも報告している。地震被災者利用者の中には強い帰宅願望の方がおり、何度も一緒に歩くとともに、専門医受診やどのような場面や状況で不穏になるのかの分析もするなど、今後も職員の関わり方を尊重しつつも、日々のケアが利用者ファーストになるよう取り組む姿勢である。日中の玄関施錠もしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議等で話し合う機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでの暮らしの中で行ってきた事、大事にしていた事等を聞き取りスタッフ全員が周知し日々のケアに活かしている。ご家族にも様子が分かるよう写真の送付は継続している。	家族からは入居前の暮らしぶりをお聴きしたり、利用者に代わり家族に思いをお伝したこともあるなど、個々の事情に応じた支援に取り組んでいる。代表者と担当職員が毎月送付しているスナップ写真も好評で、年賀状には本人写真と可能であれば直筆コメントも載せてる。面会も今はマスク着用で玄関ホールでお願いしており、頻繁に訪問頂く地元家族も多く、今年も農家の家族から田休みと稲刈り終了時とお彼岸の年4回、大量のおはぎの差し入れを頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議において随時意見を聞く以外にも日頃より風通しを良くし意見交換が行えるよう配慮している。	毎月のユニット会議には、代表者、管理者、元自治体職員に休日職員も含めた全職員が参加し、全利用者の現状把握や行事企画等を検討・協議し、代表者がいることで即決性もあり、職員からの意見や提案が反映される機会となっている。近年、勤務体制や労働時間調整、生活記録や三則表のIT化、有給休暇の活用促進、代表者抜きのグループアプリ導入に着手しており、さらに初任給アップや完全調理品の導入、資格取得に向けた仕組み作り、若い職員の抜擢人事など、働きやすい環境や業務効率化に取り組み、今は有資格者や即戦力人材も増え、今後も情報共有と自由な話し合いの環境整備に着手していく方針である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や生活環境に応じシフトや労働時間の調整等を行い誰もが働ける環境作りに務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修受講の代金を会社が負担した事で数名介護福祉士国家試験を受ける準備を整えることができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン等で常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし個々の思いに合わせられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。またご家族の事情に応じ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め病院や担当ケアマネ等と密に連絡を取り合い連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯もの干しや片付け、食事の下膳や洗い物等、利用者が積極的に行っている。一方的に介助する事なくコミュニケーションを取りながら出来る事が増えるよう関わり、出来ない事は受け入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの様子を感じてもらうためにスナップ写真を送付している。利用者様の様子に変化があればその都度連絡しご家族と共に支えられるよう務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望があれば行きつけの店での買い物、墓参り、兄弟の自宅訪問等スタッフが同行の元行っている。	そもそも来訪者が多く、入居前からの人や場所との関係や習慣、家族としての務めを果たしたいなど、本人の気持ちや事情に応じた支援をしており、行きつけ美容院に店置き週刊誌持参で訪問散髪に来て頂いたり、友人や孫・親戚等への手紙を手伝ったり、自宅の庭の柿採りに行ったり、葬儀参列や墓参り等々、今年度は入所自体を受け入れられず、近隣の実弟宅に無断外出してしまうも以後は一緒に出向くなど、様々な方々からご協力を頂き、本人の願いの具現化に取り組んでいる。北海道のご子息から数年毎に誕生日に合わせてプレゼント持参で来てもらえる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うが見つけれよう席替え等をしたり、レクリエーション等を通じて利用者様同士が関わりを持てるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時には自宅に参らせてもらったり、狭い町内のため顔を合わす機会も多いため率先して話しかけこれまでの関係性がなくなるという務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したい事やできる事を日頃の関わりの中で感じ取り本人本位のケアに努められるよう積極的に声掛けをして気持ちを汲み取っている。	全利用者に介護支援や症状管理、家族窓口等の担当職員を配しているが、日頃は全員が全利用者に関わり、利用者もまたしたい事や嫌な事を気軽に口にすることが多く、ユニット会議等で情報共有を図り、把握困難な方には普段の関わりで表情や仕草から気持ちの把握に努め、本人本位のケアとなるよう努めている。日常の洗濯物干しやたたみ、食事盛り付け、掃除等をはじめ、折り紙好きな方には元保育士職員が折り方を教え、塗り絵好きな方には下絵を差し上げ、入浴後は自分でブローしたいの言葉に洗面台に椅子を用意するなど、活きた暮らしぶりとなるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを大切に、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議において職員全員で話し合い統一したケアができるよう取り組んでいる。	計画は「その人らしさ」を重視し、担当職員またはケアマネが毎月作成のモニタリング結果と本人やヒヤリングシートに書かれた家族の気持ちも反映させ、健康維持や本人がしたい事の実現に向けた支援を具現化し、その表記も本人・家族はもとより職員誰もが具体的に何をすればよいかを端的に示す表現で、ケアマネ2名が担当ユニット分を作成し、また職員がいつでも確認できるようタブレットにも表記。数名の地震被災者の受け入れもあり、新規職員もまた多いため、まずはコミュニケーション作りを重視して、その人らしい暮らしぶりになるよう図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のための時間を確保全員が周知できるよう情報共有に努めている。また毎朝当日勤務者全員で朝礼を行い利用者様一人ひとりの状態把握を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が町外在住の方が増え受診や役場の同行の依頼があり対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今浜老人会の日舞鑑賞と一緒に参加させて頂いたり、ホーム前で行われる町主催の花火大会なども楽しむことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の受診の際にスムーズに診察が行えるよう最近の体調やバイタルの報告を行ったり、看護職員のアドバイスを聞きながら状態に応じた医療機関の受診を依頼し適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は、ホーム提携病院と個人医院に入居前からの利用者個別の医療機関の訪問診療もあり、通院や内科以外の外来受診は基本家族付き添いだが、精神的症状や家族の都合など必要に応じて職員が連れ添って近況を直接伝え、救急搬送にはホームに戻るまでを付き添っている。看護師職員もおり、生活記録や三則表をIT化させて受診の際には映像やデータをグラフ化し、提携病院とはスマホで映像送信をするなど、より適切な医療支援の充実化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との専用のノートを作成し質問や依頼を記載して指示を仰ぎ、緊急時にはメールや電話でやり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換し、気になる事があれば何でも気軽に電話し合える関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化傾向がみられたら、状態に適したベッドや福祉用具の依頼を行い、生活が少しでも安楽になるよう支援している。またご家族の要望をお聞きした上でかかりつけ医とも相談し状態の把握と、受け入れ先の病院や施設の紹介も合わせて行っている。	食事摂取量の減少など日常生活で重度化兆候が見られれば、家族に改めて診察をお願いし、診断結果に応じて歩行器や車椅子、診療やケアに適する3モーターベッドに変更等々ホームでできる支援を伝えるとともに、提携病院や特養施設への移行サポートもしており、あくまでトイレでの排泄に拘る方を入院されるまで4人がかりで支援したり、居室を玄関横の事務室に変更して最後を見送る事例もあるなど、本人・家族の意向に寄り添う対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による救急救命の勉強会に職員全員が参加し緊急時に対応できるよう務めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	症例別の対応マニュアルの整備と「ヒヤリ・ハット報告書」をユニット会議で検討することで再発防止に努めている。またグリープラインを駆使しいち早い情報共有に務めている。	窒息や転倒予防など症例別の対応マニュアルを備え、「ヒヤリハット」や「安全レポート」はタブレット管理し、会議等でデータ化した検討や協議をすることで未然予防や再発防止につなげている。消防署員による救急救命講習も復活し、近隣同法人事業所と合同で看護師職員による実践研修も、救急搬送・感染症対応・火事等の現実的緊急対応手順を見直す目的で、年間計画を立てて実施していく方針である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。他に気になることがあれば些細な事でも相談し対応している。	協力医療機関は提携病院と個人医院のほか、利用者個別の入居前からかかりつけ病院の訪問診療があり、重度・終末利用者の受け入れ実績のある近郊の福祉施設とは、コロナ禍でここ数年は未開催だが研修・勉強会等に参加する交流もある。	方針通り、被災時の早急な避難手順や断水を念頭にした持続対策、また避難訓練に消防署員の立ち合いなど、さらなる災害対策強化に取り組まれることを期待したい。
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制。緊急時には提携病院に連絡や緊急通報とともに、家族、管理者、代表者に連絡する手順で、搬送に同伴した職員を代表者か近郊居住職員が迎えに行く体制である。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で、緊急時は24時間対応の提携病院や救急通報とともに、家族、管理者、元自治体非常勤職員、代表者に連絡する手順で、救急搬送時は社用車で同行する体制となっている。夜間業務もIT化でいつでも入力可能な効率化を図り、夜勤専門職員も有資格者が多く、職員の健康状態や生活環境に即した勤務シフトや業務時間調整も図っている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を整備している。	自治体ハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網等を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で毎日日中・夜間・火元を変え、天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施している。元日地震では、地区避難所では利用者対応が困難とし、近郊居住の職員も駆け付け、近隣同法人事業所に社用車で避難したが、時間効率から職員自家用車の活用も検討するなど、改めて被災対策を見直す機会になっている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食、保存水等の備蓄品の3日分相当を(消費期限を含む)リスト化管理し、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯の防災品も整備している。	ライフライン等の連絡先リストとともに、消費期限を含むリスト化管理をした職員分を含む3日分のパン等の非常食や保存水等の備蓄品は、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品や防護服やマスク、フェースマスク、キャップ等の感染対策品とともに持ち出しやすいよう玄関ホールの収納戸棚に一括保管をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	担当職員の情報を基にユニット会議で対応を検討し症状の理解と個性を尊重したケアに取り組んでいる。洗濯物たたみ等お手伝い後には常に労いの声掛けをしている。排泄の声掛けは大きな声でしないよう配慮している。	起床後はお茶を飲みながら朝刊を読むのが習慣の方や洗い終えた洗濯物を見たらすぐに干そうとする方、盛り付けは一切れずつ丁寧に盛ってくれる方には必ずお礼の言葉を伝え、途中で分からなくなったり不十分な時はそばで励ましたり、気付かれぬようあとで直しているなど、利用者と職員との共同生活で、「その人らしさ」を大切に、その症状の理解と、その個性・尊厳を護るケアに取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望、要望を伝える方にはその都度対応している。また伝えられない方には行動やしぐさで本人の思いをくみ取るように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるように日々話し合いその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持っている洋服を把握しコーディネート等のアドバイスをしたり清潔感のある衣服が保てるよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食が摂れなくなった方には個々の状態に応じた食事形態で提供している。また食事の写真を残すことで盛り付けの器選びや彩りにも気を配り楽しみながら食事ができるよう配慮している。	食事は、チルド・冷凍の完全調理品で、食品の安全性のもと味とともに栄養管理もなされ、刻みやとろみは、別途にセットして提供している。また行事食も豊富で、中庭でのバーベキューや流しそうめん、全職員が手作りで一品ずつ持ちより個別に1人用重箱に詰めるおせち料理や、誕生日には本人のリクエストでオムライスや刺身、蕎麦など、今年は皆でお好み焼きやたこ焼きが好評で、お萩作りも楽しまれている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しが見られた際には原因を探り出来る限り食事で栄養が摂れるよう努力している。お茶、コーヒー、牛乳等要望に応じて提供している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える方には声掛けしている。介助が必要であれば毎食後用途に応じたブラシで口腔ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることでトイレで排泄する習慣や下剤服薬等の体調管理、またユニット会議等で適切なパンツやパットの検討にも役立てている。	排泄管理も、タブレットに時間、尿・便、性状、パット・オムツ交換等を入力し、症状によっては映像も残し、適切なパット・紙パンツ、誘導タイミングや仕方の実践につなげている。正常な習慣維持に向け、おやつタイムは、おやつを選定とともにコーヒー、カルピス、ココア、紅茶、牛乳、乳酸菌飲料等から選んでもらうなど、確実な水分摂取につなげ、服薬にはあまり頼らず本来の能力を引き出す支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事内容や水分摂取量に注意しているが、それでも困難な時は主治医に内服の調整を依頼しスムーズな排便ができるようにしている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴嫌いの方にも週2回以上入浴できるようタイミングや声かけの仕方を工夫している。また湯加減や一番風呂、入浴日以外の入浴等の要望にも応じている。男性スタッフが苦手な方には女性スタッフが対応できるよう配慮している。	入浴は、その日の職員シフトに合わせて毎日午前中に、週2回以上を目安にご利用頂いており、入浴剤のほか家族や近所の方からの差し入れで柚子や菖蒲湯もあり、タオルや洗髪剤、石鹸等は全利用者分を個別に配備し、一番風呂など本人が入浴したいタイミングにも応じている。嫌がる方は少なく、時に仲良しの方が入浴されているところに入りに来られ、同意のもと2人一緒にそのまま入って頂くこともある。また、一年を通してすべてシャワー浴の方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ日常生活に支障が出ない範囲で午睡を取り入れている。夜間の睡眠の妨げにならないよう部屋の明るさに配慮している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について疑問があれば電話したり薬を届けてもらう際にお互いに質問し合えるため服薬について不安がない状態である。毎月発行される薬情を確認しカルテに綴っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食事の下準備や掃除、洗濯物干しや洗濯物たたみなど本人の得意とする作業を行ってもらっている。また折り紙や貼り絵、塗り絵など要望に応じて提供している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やもみじ狩り、季節を感じてもらえるようドライブに出かけている。また中庭にはいつでも出入りできており、時にはスタッフと共に散歩や日向ぼっこを楽しんでいる。	コロナ禍で断念していた福祉ワゴン車を借りて皆で外食も兼ねる外出企画は復活し、今年は地元の桜名所や寺院に繰り出している。また日常でも散歩や気晴らしドライブ、食材や日用品購入にも利用者を同伴しており、また誕生日に食べたいものや行きたい所をお聞きして出かける企画も復活し、初詣は行きたい利用者が何名もいたため、職員2名利用者2名で何度も往復して気持ち新たに新年を迎えている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持している。買い物に同行した際はご本人に支払いして頂いている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方も増えてきた。使い方が分からなくなる事もあるためその都度指導している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理、空気清浄機や窓開け換気も行い感染対策している。季節を感じてもらえるよう雛人形や五月人形、クリスマスツリー等の飾り付けを利用者の方々とともにしている。また利用者様自ら庭に咲く花を摘み玄関やホールを華やかに飾ってくれている。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、窓開け換気も全開や少し開けなどほぼ1日中実施しているなど、依然、消毒清掃も徹底した感染対策を講じている。装飾は季節ごとに利用者を作り、玄関広間とユニット出入口には本格的な生花の飾り付けもあり、初詣や節分、雛祭り、花見、ホーム夏祭り、紅葉狩り、クリスマス等々、毎月何かしらの行事企画も開催している。また玄関軒下には毎年ツバメが巣作りに来ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファ席やホールの共有スペースを自由に思い思いに過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室洋室でベッドと夏冬の羽毛布団を準備している。テレビや整理ダンス、使い慣れた椅子等を持ってきてもらう事で居心地よい空間作りができるようにしている。またホームで撮った家族写真や行事写真、自分で作られた作品等を飾り暖かみのある居室作りができるよう配慮している。	居室はベッドが備え付けの全室洋室で、夏冬の羽毛布団はシーズン毎に交換している。小型テレビや整理ダンス、ハンガーラック等々、馴染みや使い慣れた物を持ち込まれ、その後は運動機能の推移に応じて家族とも相談して配置換えをし、安心・安全・快適環境維持に努め、アパートを引き払ったために家財道具をそのまま運び入れている方もいる。また被災者受け入れの際には備え付けベッドを増やし、職員等からの中古タンスや古着を提供している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を作り、またトイレや浴室の案内板は大きく分かりやすいように表示している。		